

「第5回 ELN 研究会」の開催について（御案内）

主催：ELN 研究会
共催：創薬情報研究会

春陽の候、皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

当 ELN 研究会も、皆様のお陰をもちまして、発起から 5 年目を迎えることとなりました。ELN システムについて考えると、目まぐるしい程に変化してきましたが、今も「未だ道半ば」との思いが残ります。これからも皆様と様々な情報を交換してさらに前へ進みたいと、心を新たにこの頃です。

本年度 5 回目となる ELN 研究会は、下記のとおり、来る 5 月 22 日（水）に大阪で開催することとしました。この 1 年はベンダー各社の合従連衡も落ち着いた感もあり、国内においては一時のような寡占状態もなくなりつつあるように見受けられます。そこで、今回はしばらくお休みしていたベンダープレゼンテーションの場を午前中に設けることにしました。これから導入あるいは展開を考えている方には参考としていただけると存じます。一方で今回からの試みとして、分科会形式での DeepUser 向けセッションを午前中に並行開催することとしました。実際に運用を進めていく中での課題や問題点について、情報交換の場になることを期待しております。

午後の部では、今回のメインテーマ「完全電子化への挑戦」に沿った内容にて、ELN ユーザーの方 2 名と、電子署名の専門家の方に講演をお願いしております。ELN システムで避けて通れないこのテーマに関し、何らかの手掛かりを得ていただければ幸いです。

皆様、ご多忙とは存じますが万障お繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願い申し上げます。なお、準備の関係上、参加申し込み(Email)は 5 月 17 日（金）までに事務局までお送りいただけますよう、よろしくお願い致します。

参加申し込み時には、午前の部の分科会出席予定をご記入ください。また、参加申込み者には、当日の議論のポイントを発掘するため、事務局からの参加登録受付の確認案内に添付しますアンケートにご回答のうえ、5 月 20 日（月）17:00 までに事務局までご送付いただけますようお願いいたします。

記

第 5 回 ELN 研究会開催の案内

日時：2013 年 5 月 22 日（水）

会場：富士通株式会社 関西システムラボラトリ（大阪京橋） 中セミナー室

住所：大阪府大阪市中央区城見 2-2-6 <http://jp.fujitsu.com/branches/kansai/>

参加費： ¥2,000

第5回 ELN 研究会 プログラム

午前の部：開会 T10:00～T11:50 ころ （受付 T9:30～）

分科会 A：ベンダーによるシステム紹介プレゼンテーション

1社あたり約25分の持ち時間で紹介と質疑応答

発表ベンダーと概要は次ページ

分科会 B：運用において直面している課題や問題に関するユーザー間の情報交換

ユーザー代表から、運用に際しての感想のショートプレゼンテーション1題

その後参加者による自由討論

進行：ELN 研究会幹事

午後の部：開会 T13:00～ （午後の部からの参加者受付 T12:30～）

メインテーマ：完全電子化への挑戦

講演1：T13:10～13:50

「長年の電子ノート運用における紙運用の課題」

演者：エーザイ株式会社 河合隆利様

要旨：エーザイでは2004年に化学系研究に電子ノートを導入しました。しかしその目的は反応情報の共有や試薬管理システム等との連携、反応収率自動計算などの業務効率化を主眼としたものであり、知的財産的には同時に作成する紙のノートを原本とする、というハイブリッドな運用を2011年まで続けてきました。この間に経験したさまざまな課題を紹介し、完全電子化に向けて議論すべきポイントを明らかにしていきたいと思います。

講演2：T13:50～14:30

「電子署名とタイムスタンプ」

演者：タイムビジネス協議会企画運営部会長 柴田孝一様

情報は将来の活用時点で、その真正性を証明できることが求められます。

デジタル署名技術とそれを応用した電子署名とタイムスタンプ

混同されがちなそれぞれの役割と仕組みについて、世界の標準化の動向を交えて紹介し、デジタルだからできる情報への証拠付与と、その証拠力について解説します。

講演3：T14:30～15:10

「武田薬品工業における化学系電子実験ノート(ELN)の完全電子化運用にむけた取り組み」

演者：武田薬品工業株式会社 福井誠二様

武田薬品では電子実験ノートシステムの導入時から完全電子化で運用することを目指し、様々な検討を重ねてきた。そして、2010年3月から電子実験ノートの完全電

子化運用を開始した。

本研究会では、完全電子化の実現に向けた取り組みについて、プロジェクト推進体制、システム強化事例、SOP 整備事例などを交えて紹介する。また、完全電子化における課題についても紹介する。

総合討論：T15：30～17：00

「完全電子化に挑戦するにあたっての課題を抽出し、解決法を探る」

進行：ELN 研究会幹事

懇親会：T17：20 ころ～19：20

研究会終了後、参加者各位との懇親会を予定しております。参加を希望される場合はあわせて事務局までご連絡ください。会場などの詳細は、当日案内いたします。

なお、懇親会費として¥3,000（実費）を徴収いたします。

午前の部 分科会 A 発表ベンダーと概要

ベンダー発表：20 分、質疑応答：3 分、入れ替え：2 分

なお、当該発表以外のベンダーの方（関係ベンダー除く）の聴講はご遠慮ください。

A-1：T10:10～

発表者：アジレント・テクノロジー株式会社 ネットワークプロジェクト 峯岸 徹也

製品名：OpenLAB ELN

発表内容の概要：CMC ラボ分野のワークフローとデータ入力業務に着目して、電子データと報告書を関連付け、コンプライアンス対応と分析ラボ作業効率の向上を両立する、電子ラボノートの新しい使い方を提案します。

A-2：T10:35～

発表者：アクセルリス株式会社 シニアコンサルタント 安田 誠

製品名：クラウド版創薬データ共有ツール(Accelrys HEOS)/電子実験ノート(Contur ELN)

発表内容の概要：近年外部委託での共同研究の重要性はますます増加しており、その役割もコスト削減から、タレントの発掘、知的財産の共有と変化してきている。本講演では共同研究を円滑に推進する標記 2 つのソリューションをご紹介します。

A-3：T11:00～

発表者：CTCLS R&D ソリューション第 2 部 千葉 徹也

製品名：IDBS E-WorkBook

発表内容の概要：「IDBS 社 E-WorkBook 導入における生物系実験ノートの完全電子化へ向けてのポイント、課題、解決方法などについて、他社事例を交えてご紹介

A-4：T11:25～

発表者：株式会社パーキンエルマージャパンインフォマティクス事業部 宇佐 明人

製品名：PerkinElmer 社 E-Notebook Enterprise

発表内容の概要：パーキンエルマー社による事業統合より約 2 年が経過するが、新たな電子実験ノートの戦略について将来展望を交えて紹介する。

以上

別記 1

1. 参加申し込み

研究会へ参加されます方は、以下の e-Mail を事務局までお送りください。

+++++++<ここから>+++++++

あて先：ddif-office@cac.co.jp

メール件名：「第 5 回 ELN 研究会」

お名前（ふりがな）：（ ）

会社名：

ご所属：

お役職：

電話番号：

E-mail：

午前の部で参加する分科会：（いずれかを消してご送信ください）

分科会 A：ベンダーによるシステム紹介プレゼンテーション

分科会 B：運用において直面している課題や問題に関するユーザー間の情報交換

懇親会：参加／不参加